

○計画期間:平成28年4月～令和3年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和元年度終了時点(令和2年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市は、平成28年4月以降、中心市街地活性化基本計画の「Re・Innovation 唐津～まちなか骨格軸の革新と歴史・文化のイノベーションによる、憧れの城下町・唐津～」というコンセプトのもと、「賑わいあふれる魅力ある商業の創出」、「訪れたい魅力ある観光の創出」の2つを活性化の目標に掲げ、43の事業を実施しているところである。

令和元年度の特筆すべき変化としては、新天町パティオ街区再開事業が完了し、令和元年10月25日に「KARAE」としてオープンしたことが挙げられる。施設全体で43名を雇用し、令和2年1月末までに合計15,463人の集客があった。さらに空き店舗も解体されたことで、空き店舗率の減少にもつながっている。中心市街地の核となる施設であり、今までの商店街になかった機能を持ち合わせていることから、イベント等の範囲も広がり、より一層の人々の交流の創出と、他の商店への経済的な波及効果を今後も期待したい。

懸念事項としては、新型コロナウイルス感染症により令和2年3月頃から経済的な打撃を受けていることが挙げられる。商店街の方々の声としては、海外からの観光客がクルーズ船の寄港が見送られ大幅な減少となっている、物流がストップし商品が不足している、外出が自粛されている環境でお客さんを呼び込むことができない、人通りが無くなった、などの声があった。前述した「KARAE」も、飲食・ホテル・映画館が主な業態となっているため影響はすさまじく、期待していたインバウンド需要も壊滅的とのことだった。今後も、新型コロナウイルス感染症の影響がいつまで続くのか先行きが見通せず、商店にとって最大の不安要素であると思われるため、経済対策を講じて影響を最小限に抑え、また観光客に頼りすぎない地域経済の拡大を目指す等、コロナ禍が去った後の景気回復を促進する必要がある。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日：毎年度1月1日)

(中心市街地 区域)	平成 27 年度 (計画前年度)	平成 28 年度 (1 年目)	平成 29 年度 (2 年目)	平成 30 年度 (3 年目)	令和元年度 (4 年目)	令和 2 年度 (5 年目)
人口	8, 005 人	8, 077 人	8, 029 人	7, 930 人	7, 805 人	
人口増減数	9 人	72 人	▲48 人	▲99 人	▲125 人	
自然増減数						
社会増減数				▲110 人	▲45 人	
転入者数				238 人	210 人	

※社会増減数及び転入者数は、平成 30 年度から算出。

**2. 令和元年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見**

残されていた主要事業である「新天町パティオ街区再開発事業」が終了したが、新型コロナウイルス感染症の影響は注視していく必要がある。来年度は中心市街地活性化基本計画の最終年度で、仕上げの年であるため、「新天町パティオ街区再開発事業」の効果を図りつつ、中心市街地の現状分析を行う予定である。合わせて協議会員の皆様へのアンケートも実施する予定であり会員へ協力をお願いし、これまでの成果を踏まえ課題を明らかにしていきたい。

## II. 目標ごとのフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
賑わいあふれる魅力ある商業の創出	空き店舗率	22.77% (H26)	16.69% (R2)	17.11% (R1)	B	③	②
	来街者満足度	19.43% (H27)	32.53% (R2)	48.89% (R1)	A	③	②
訪れたい魅力ある観光の創出	中活エリア観光施設入り込み客数	314,130 人 (H26)	339,551 人 (R2)	300,286 人 (R1)	C	①	②

#### <取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

### 2. 目標達成見通しの理由

新型コロナウイルス感染症の影響が不透明であるが、マイナス要因であることは間違いなく、対策を講じなければ目標達成は厳しいと考え、全て②とした。指標のうち、最も影響が大きいと思われる指標は中活エリア観光施設入り込み客数であると思われるが、影響は多岐にわたると考えられ、経済停滞による空き店舗の増加や、それに伴う満足度の低下も発生すること大いにありうる。そのため、観光客数の回復はもちろんだが、地域経済を支えている中小企業・小規模事業者の下支えを継続的に行っていく必要がある。

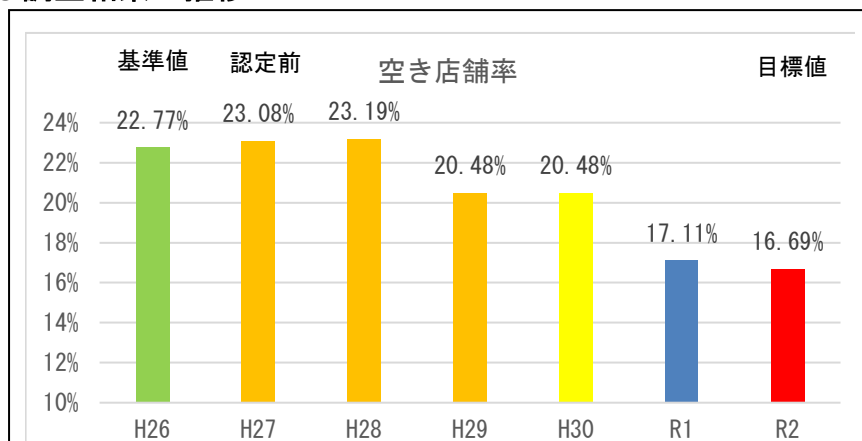
### 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

目標達成見通しの理由と重なるが、不可抗力である新型コロナウイルス感染症という予想を超える異常事態が発生し、目指している賑わいや観光を自粛しなければならない状況になっている。この先の新型コロナウイルス感染症の動向次第ではあるが、令和2年度ですぐにV字回復とはならないと予想したため見通しを変更した。

#### 4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

「空き店舗率」※目標設定の考え方基本計画 P67～P69 参照

##### ●調査結果の推移



年	(単位：%)
H26	22.77%
	(基準年値)
H28	23.19%
H29	20.48%
H30	20.48%
R1	17.11%
R2	16.69%
	(目標値)

※調査方法：目視による空き店舗確認

※調査月：令和1年10月

※調査主体：佐賀県

※調査対象：唐津中央商店街（協同組合呉服町商店街、協同組合京町商店街、中町商店街協同組合、刀町振興会）

##### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

###### ①. 空き店舗チャレンジ誘致事業（唐津市）

事業実施時期	平成23年度～（実施中）
事業概要	中心市街地の空き店舗に出店の際、店舗改装費及び広告宣伝費の補助と併せて、商工会議所との連携による経営サポート等の支援による店舗誘致事業。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	令和元年度は2つの出店者が本事業の支援を受けて空き店舗に出店しており（呉服町1件、刀町1件）、空き店舗数の減少につながった。今後も事業を継続することで空き店舗率の改善が期待される。また、出店後も商工会議所の経営相談等のサポートが行われている。空き店舗の改善に加え、今までにない業種の出店も行われており、多様なサービスの提供により、来街者の満足度の向上に寄与している。
事業の今後について	今後も店舗改装費の補助以外にも、出店後の経営を持続可能にするためのサポートを商工会議所・地元金融機関と協力しながら行っていく。

###### ②. 新天町パティオ街区再開発事業（いきいき唐津株式会社）

事業実施期間	平成28年度～令和元年度（完了） [認定基本計画：平成28年度～平成30年度]
事業概要	唐津中央商店街内の新天町パティオ街区に滞在型・交流施設

	を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	<p>①特定民間中心市街地経済活力向上事業計画の経済産業大臣の認定（経済産業省）（平成28年度～平成30年度） [認定基本計画：平成29年度～平成30年度]</p> <p>②地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金（中心市街地再興戦略事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省）（平成30年度）</p> <p>③中心市街地における低利融資（企業活力強化貸付（企業活力強化資金））（経済産業省）（平成30年度）</p> <p>④特定民間中心市街地経済活力向上事業の用に供する不動産の取得又は建物の建築をした際の登録免許税の軽減（経済産業省）（平成30年度）</p> <p>⑤地域文化資源活用空間創出事業費補助金（経済産業省）（平成28年度～平成30年度） [認定基本計画：平成29年度～平成30年度]</p>
事業効果及び進捗状況	<p>建築資材の不足による工事の中断によりオープンが遅れるというトラブルがあったものの、令和元年10月に「KARAE（唐重）」としてオープンした。飲食・ホテル・映画館がメインの複合施設としてオープンしたが、経営が軌道に乗る前に新型コロナウイルス感染症が発生したため、現時点での事業効果等の評価は難しい。引き続き周辺の商業関係者を交えながら中心市街地の起爆剤としての効果を周辺に波及させていくための検討を実施主体であるいきいき唐津株式会社を中心に行っていく。</p>
事業の今後について	<p>商店街や各種事業者組合、地域づくりを担う団体等で構成される「KARAE会議」を設置し、さらに商工観光部会、文化・学び部会の2つの部会も同時に開催することで、市民団体との協働によって中心市街地や唐津の観光の活性化に寄与する取り組みについて検討を行う。</p>
<b>③. 呉服町商店街ファサード整備事業（呉服町商店街組合員）</b>	
事業実施期間	<p>平成27年度～平成29年度（完了） [認定基本計画：平成27年度～]</p>
事業概要	<p>呉服町商店街が策定した景観まちづくりのガイドラインに基づき各店舗が店舗前面部分の改装を行い、その改装費の補助を行う。</p>
国の支援措置名及び支援期間	<p>国の支援措置なし</p>
事業効果及び進捗状況	<p>平成29年度は5店舗がファサード改装を行った。27・28年度分（24店舗）を合わせると対象の48店舗中29店舗が</p>

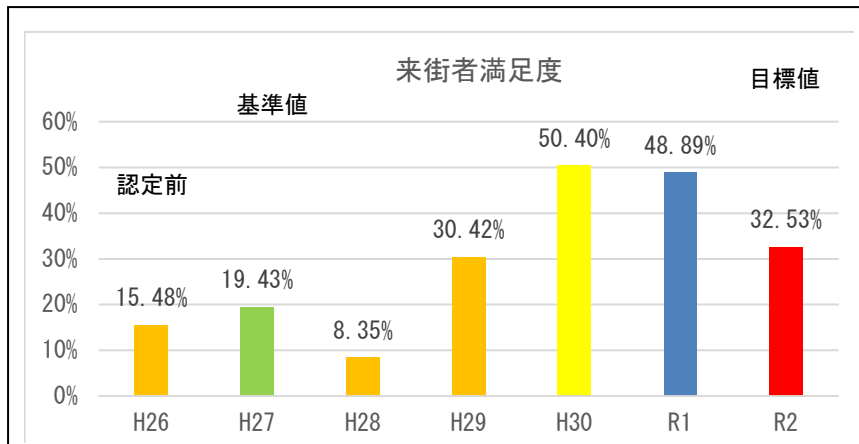
	工事を終えた。また、同事業を行う際に呉服町商店街が策定した「呉服町商店街景観ガイドライン」を事業完了後も引き続き運用を行っており、既存店舗の改修や、上記の新天町パティオ街区再開発事業においても、同ガイドラインを満たすよう審査・調整が行われ、統一した景観が形成されつつある。
事業の今後について	本事業をきっかけとして、商店街へのイベント誘致の可能性や外国人観光客の増加を各商店が実感しており、商店街における観光満足度向上と消費喚起の取り組みを行っていく。

### ●目標達成の見通し及び今後の対策

令和元年度においても空き店舗チャレンジ誘致事業により中心市街地に2つの新規事業者が空き店舗に出店している。また、新天町パティオ街区再開発事業が完了し、当該区域の空き店舗の減少につながり、空き店舗率は減少した。しかし、後継者・従業員不在による退店・他市への移転等も同時に起きている。新天町パティオ街区再開発事業について建築資材の調達が困難になったため、施設オープン予定が当初計画より約半年遅れることとなったが、令和元年10月末に「KARAE」としてオープンし、新たな飲食店・映画館・ホテル等が出店した。引き続き中心市街地の新規出店を支援していくとともに、退店のために再び空き店舗が増加しないよう、創業者や既存の事業者が持続的に経営できる環境を作るため、創業・経営相談窓口の設置や商工会議所等の専門機関と連携を図りながら、やる気のある起業家や繁盛店作りを支援していく。

「来街者満足度」※目標設定の考え方基本計画P70～P79参照

●調査結果の推移



年	(単位：%)
H27	19.43%
	(基準年値)
H28	8.35%
H29	30.42%
H30	50.40%
R1	48.89%
R2	32.53%
	(目標値)

※調査方法：来街者に対する聞き取り調査

※調査月：令和2年1月

※調査主体：唐津市

※調査対象：中心市街地商店街への来街者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 空き店舗チャレンジ誘致事業（唐津市）【再掲】

事業実施期間	平成23年度～（実施中）
事業概要	中心市街地の空き店舗に出店の際、店舗改装費及び広告宣伝費の補助と併せて、商工会議所との連携による経営サポート等の支援による店舗誘致事業。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	令和元年度は2つの出店者が本事業の支援を受けて空き店舗に出店しており（呉服町1件、刀町1件）、空き店舗数の減少につながった。今後も事業を継続することで空き店舗率の改善が期待される。また、出店後も商工会議所の経営相談等のサポートが行われている。空き店舗の改善に加え、今までにない業種の出店も行われており、多様なサービスの提供により、来街者の満足度の向上に寄与している。
事業の今後について	今後も店舗改装費の補助以外にも、出店後の経営を持続可能にするためのサポートを商工会議所・地元金融機関と協力しながら行っていく。

②. 新天町パティオ街区再開発事業（いきいき唐津株式会社）【再掲】

事業実施期間	平成28年度～令和元年度（完了） [認定基本計画：平成28年度～平成30年度]
事業概要	唐津中央商店街内の新天町パティオ街区に滞在型・交流施設を整備する。
国の支援措置名	①特定民間中心市街地経済活力向上事業計画の経済産業大臣

及び支援期間	<p>の認定（経済産業省）（平成28年度～平成30年度）          [認定基本計画：平成29年度～平成30年度]</p> <p>②地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金（中心市街地再興戦略事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省）（平成30年度）</p> <p>③中心市街地における低利融資（企業活力強化貸付（企業活力強化資金））（経済産業省）（平成30年度）</p> <p>④特定民間中心市街地経済活力向上事業の用に供する不動産の取得又は建物の建築をした際の登録免許税の軽減（経済産業省）（平成30年度）</p> <p>⑤地域文化資源活用空間創出事業費補助金（経済産業省）（平成28年度～平成30年度）          [認定基本計画：平成29年度～平成30年度]</p>
事業効果及び進捗状況	<p>建築資材の不足による工事の中断によりオープンが遅れるというトラブルがあったものの、令和元年10月に「KARAE（唐重）」としてオープンした。飲食・ホテル・映画館がメインの複合施設としてオープンしたが、経営が軌道に乗る前に新型コロナウイルス感染症が発生したため、現時点での事業効果等の評価は難しい。引き続き周辺の商業関係者を交えながら中心市街地の起爆剤としての効果を周辺に波及させていくための検討を実施主体であるいきいき唐津株式会社を中心に行っていく。</p>
事業の今後について	<p>商店街や各種事業者組合、地域づくりを担う団体等で構成される「KARAE会議」を設置し、さらに商工観光部会、文化・学び部会の2つの部会も同時に開催することで、市民団体との協働によって中心市街地や唐津の観光の活性化に寄与する取り組みについて検討を行う。</p>

### ③. 呉服町商店街ファサード整備事業（呉服町商店街組合員）【再掲】

事業実施期間	<p>平成27年度～平成29年度（完了）          [認定基本計画：平成27年度～]</p>
事業概要	<p>呉服町商店街が策定した景観まちづくりのガイドラインに基づき各店舗が店舗前面部分の改装を行い、その改装費の補助を行う。</p>
国の支援措置名及び支援期間	<p>国の支援措置なし</p>
事業効果及び進捗状況	<p>平成29年度は5店舗がファサード改装を行った。27・28年度分（24店舗）を合わせると対象の48店舗中29店舗が工事を終えた。また、同事業を行う際に呉服町商店街が策定した「呉服町商店街景観ガイドライン」を事業完了後も引き続き</p>



	運用を行っており、既存店舗の改修や、上記の新天町パティオ街区再開発事業においても、同ガイドラインを満たすよう審査・調整が行われ、統一した景観が形成されつつある。季節のイベントや唐津焼関連のイベントが催されるなど一定の賑わいの創出につながっている。
事業の今後について	本事業をきっかけとして、商店街へのイベント誘致の可能性や外国人観光客の増加を各商店が実感しており、商店街における観光満足度向上と消費喚起の取り組みを行っていく。

#### ④. 低床バス導入事業（昭和自動車株式会社）

事業実施期間	平成27年度～（実施中）
事業概要	車両に乗りにくいという意見が多いことを受け、交通弱者が気軽にバスを使って中心市街地へ足を運べるよう低床バスを導入するもの。
国の支援措置名及び支援期間	地域公共交通確保維持改善事業費補助金（国土交通省）（平成28年度～）
事業効果及び進捗状況	令和元年度において、昭和自動車株式会社が導入した低床バスは4台となった。
事業の今後について	引き続き、バリアフリー化を進め、ベビーカー利用者や高齢者の外出機会を増やすため、昭和自動車株式会社と連携をとりながら、低床バス導入を実施していく。

#### ⑤. バスの乗り方教室の実施（昭和自動車株式会社）

事業実施期間	平成27年度～（実施中）
事業概要	バスの乗り方がわからないという若年層・高齢者にバスを身近に感じてもらうためバスの乗り方・マナー啓発を行うことによりバス利用者を増やす。
国の支援措置名及び支援期間	改正地域公共交通活性化再生法（国土交通省）（平成28年度～）
事業効果及び進捗状況	例年、各小学校に教室開催についての案内を行っているところであるが、令和元年度はバスの乗り方教室の要望がなかったため、実施できなかった。
事業の今後について	利用者がわかりやすく利用できる環境の整備を進めるため、引き続き、昭和自動車株式会社と地域と連携をとりながら、各小学校に教室開催の案内を行うとともに、各地域の老人会等に教室開催の案内を行うことを検討している。

#### ⑥. 子育て支援拠点事業（唐津市）

事業実施期間	平成28年度（完了）
--------	------------

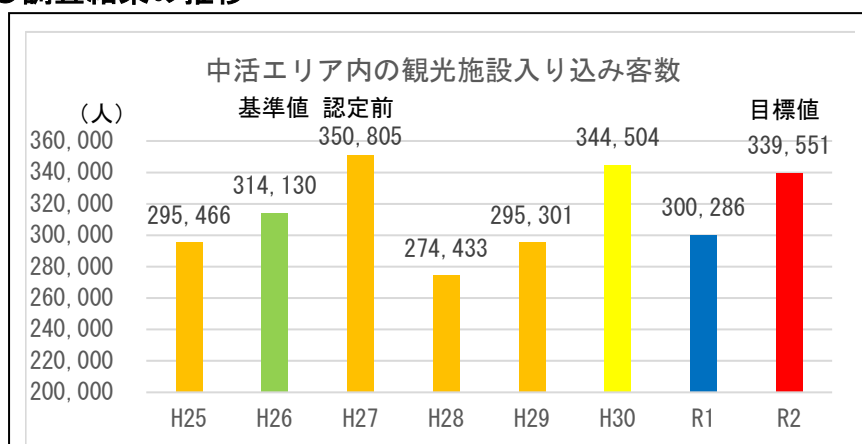
事業概要	地域の身近なところで気軽に親子の交流や子育て相談が受けられる場所を作り、子育てしやすい環境の充実を図る。
国の支援措置名及び支援期間	合併特例債（総務省）（平成28年度～令和2年度）
事業効果及び進捗状況	平成29年度4月から「唐津市子育て情報センター」を開設し、子育て家庭のニーズに合わせて、必要な支援を選択し利用できるような情報の提供や相談・支援を行っている。令和元年度は大手口センタービルの子育て支援情報センターにおいて1179件の相談があり、開設初年度の769件から増加している。
事業の今後について	運営主体であるNPO法人子育て支援情報センターと連携を図りながら、各種イベントや病後児保育のサポート等を行い、子育て親子の交流の場を提供し、保護者相互の交流や情報交換の促進を図っていく。

### ●目標達成の見通し及び今後の対策

令和元年度の来街者満足度調査において、昨年度と同様に概ね半数の来街者が満足していると回答した。また、外国人観光客向けのクルーズ船の寄港が増加傾向にあることを踏まえ、令和元年度は来街者満足度調査において初めて外国人も対象とすることにした。日本人観光客の満足度よりおおむね高い評価を得たため、外国人観光客の需要を期待していた事業者も多かったと思われるが、新型コロナウイルス感染症の影響で今後はほとんどのクルーズ船の寄港が見送られる予定であり、外国人観光客自体が大幅な減少となる見込みである。今後の対策としては、商店街を日常的に利用している地域の方々の満足度向上ももちろんだが、「KARAE」内に宿泊施設もあることから、新型コロナウイルス感染症が落ち着きを取り戻した後の事も考え、観光客など一過性の来街者の満足度を高めるための商店街の回遊性向上などを図っていく必要がある。

「中活エリア内の観光施設入り込み客数」※目標設定の考え方基本計画 P79～P85 参照

●調査結果の推移



年	(単位:人)
H26	314,130 人 (基準年値)
H28	274,433 人
H29	295,301 人
H30	344,504 人
R1	300,286 人
R2	339,551 人 (目標値)

※調査方法：中心市街地内に立地する観光施設7施設の入場者数の合計

※調査月：平成31年4月1日～令和2年3月31日

※調査主体：唐津市

※調査対象：観光施設入場者数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 呉服町商店街ファサード整備事業（呉服町商店街組合員）【再掲】

事業実施期間	平成27年度～平成29年度（完了） [認定基本計画：平成27年度～]
事業概要	呉服町商店街が策定した景観まちづくりのガイドラインに基づき各店舗が店舗前面部分の改装を行い、その改装費の補助を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成29年度は5店舗がファサード改装を行った。27・28年度分（24店舗）を合わせると対象の48店舗中29店舗が工事を終えた。また、同事業を行う際に呉服町商店街が策定した「呉服町商店街景観ガイドライン」を事業完了後も引き続き運用を行っており、既存店舗の改修や、上記の新天町パティオ街区再開発事業においても、同ガイドラインを満たすよう審査・調整が行われ、統一した景観が形成されつつある。
事業の今後について	本事業をきっかけとして、商店街へのイベント誘致の可能性や外国人観光客の増加を各商店が実感しており、商店街における観光満足度向上と消費喚起の取り組みを行っていく。

②. 城内地区・曳山通り景観まちづくり事業（唐津市）

事業実施期間	平成28年度（完了）
事業概要	城内地区・曳山通りならではの佇まいを守り、つくり、育て、賑わいの創出につなぐため、景観まちづくり条例の改正を行うもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成29年3月唐津市景観まちづくり条例を改正。平成29年8月に唐津市景観まちづくり推進事業補助金がスタートした。令和元年度においては中心市街地内の建物新築・改修等に伴い53件の届出があり、1件の補助金の交付を行った。
事業の今後について	景観まちづくり条例は順調に運用されており、今後も、城内・曳山通りにふさわしい景観形成を図るため、市民への周知を行っていく。

### ③. 旧大島邸復原整備（唐津市）

事業実施期間	平成25年度～平成28年度（完了）
事業概要	城内地区に残っていた旧大島邸を文化交流の結節点とすることを目的に、主屋、茶庭、茶室などを復原し、見学施設や貸館による活用を図り、中心市街地における市民や観光客の交流拠点を整備した。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（唐津市中心市街地地区））（国土交通省）（平成25年～平成28年度）
事業効果及び進捗状況	平成29年4月23日に開館し、令和元年度は7,573人の入場と47件の貸館による利用があった。貸館の利用としては、茶会や講演会、展示会のほか、食事会や集会などの利用を得た。
事業の今後について	今後散策ルートの設定やイベントの誘致等を行うことで、中心市街地の周遊性の向上と文化交流の結節点としての機能強化を図っていく。

### ④. 南城内駐車場整備事業（唐津市）

事業実施期間	平成28年度（完了）
事業概要	旧大島邸と一体的に整備を行い、旧大島邸利用者のみならず、城内観光の拠点とするべく整備を行った。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（唐津市中心市街地地区））（国土交通省）（平成28年度）
事業効果及び進捗状況	旧大島邸と同じく、平成29年4月23日にオープンし、令和元年度はのべ約3万8千台の利用があった。昨年度より約4千台増加しており、利便性の向上による城内来訪者の増加に

	繋がったものと思われる。
事業の今後について	整備によって休日の観光客のみならず、平日の通勤利用も増えている。周辺施設である旧大島邸や唐津市市民会館、曳山展示場の主要な駐車場のため施設の利用促進を図り、駐車場の利用増につなげていく。

#### ⑤. 唐津城天守閣改修等事業（唐津市）

事業実施期間	平成25年度～平成29年度（完了）
事業概要	中心市街地のランドマークとなっている唐津城天守閣の維持及び観光客の入館の増加を図るために、天守閣の耐震補強及び空調設備の新設や資料の保存、活用を図るための展示ケース等の改修を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（唐津市中心市街地地区））（国土交通省）（平成26年～平成29年度）
事業効果及び進捗状況	平成29年7月にリニューアルオープンし唐津市の主要な観光施設となっている。令和元年度は141,125人の観光客が来館した。
事業の今後について	唐津市の主要な観光施設としての機能を果たしている。今後、定期的な展示物の入れ替えを行い、展示説明についても英語対応などの充実を図っていき、来場者の満足度向上を図っていく。

#### ●目標達成の見通し及び今後の対策

観光需要が見込めず、従来の観光サービスの提供が困難になっている。

コロナ終息後を見据え、唐津市が提供する新しい生活様式に合わせた観光サービスについて、各関係者と協議を行いながら観光戦略の再構築等を行っていく。併せて中心市街地を訪れる観光客を増やすためには観光関連施設のコロナ感染対策を徹底するとともに、施設利用の方法を情報発信する等、中心市街地を訪れる観光客が安心して観光ができる環境づくりが必要となる。

観光産業に従事する事業者の財政支援、官民連携の消費喚起・PR活動、国の「Go To キャンペーン」などを含め、新しい生活様式にあわせた観光コンテンツの充実を図る必要がある。